

# 目次

はじめに（飯田）	i
<b>I 本書出版までの経緯（飯田）</b>	<b>1</b>
1.1 病院情報システム構築に関する検討	1
1.2 デジタル社会形成整備法	1
1.3 デジタル社会における情報の利活用	2
<b>II 経営と情報（飯田）</b>	<b>3</b>
2.1 経営とは	3
2.2 情報管理	3
2.2.1 情報利活用	3
2.2.2 セキュリティ	4
2.2.3 サイバーセキュリティ基本法	4
2.2.4 医療情報システムの安全管理に関するガイドライン 6.0 版への対応	5
2.2.5 個人情報保護	5
2.3 経営資源と情報	5
2.4 経営資源と仕組み	6
2.5 諸問題とは	6
<b>III 病院情報システム（HIS）の特徴と内製化（飯田）</b>	<b>8</b>
3.1 HISの特徴	8
3.2 HISの制約	8
3.3 情報システム構築の基本的考え方	8
コラム 1：アマチュアとプロフェッショナル（堀）	9
<b>IV 情報（理論・技術）の進展による社会情勢の変化（飯田）</b>	<b>10</b>
4.1 情報革命と社会革命	10
4.1.1 情報化と DX（Digital Transformation）	10
4.2 情報革命に基づく情報社会の特徴	10
4.2.1 境界・壁の崩壊・撤廃	10
4.2.1.1 時間（時のつながり・ながれ）	11
4.2.1.2 空間（拡がり）	11
4.2.1.3 モノ（物体）	11
4.2.1.4 コト（あらわれ）	11
4.2.1.5 思考（かんがえ）	11

4.2.1.6	しくみ	11
4.2.1.7	かかわり (相互の影響・つながり)	11
4.2.1.8	虚実	11
4.2.2	不確実性	12
4.2.3	変革の方向	13
4.2.4	変革の促進要因	13
4.2.4.1	ウイルスの蔓延	13
4.2.4.2	ウクライナ戦争	13
<b>V</b>	<b>内製化の考え方・ツール (道具)・手順 (飯田)</b>	<b>14</b>
5.1	内製化とは	14
5.2	内製化の理由	14
5.3	内製化の方法	14
5.4	内製化における検討事項	15
5.4.1	HIS の改良・改修を要するか	15
5.4.2	改良・改修の対象を明確にする	15
5.4.3	内製化を要するか	15
5.4.4	内製化は可能か	15
5.4.5	内製化の範囲	15
5.5	人材確保・育成	16
5.5.1	IT 人材確保・育成	16
5.5.2	一般職員教育	16
	コラム 2: 業務フロー図作成のススメ (小谷野)	17
	コラム 3: 内製化は奥が深く、一筋縄には行かない (飯田)	18
<b>VI</b>	<b>内製化と他の仕組みとの連携 (飯田)</b>	<b>19</b>
6.1	内製化と EUC (End User Computing)	19
6.2	内製化と RPA (Robotic Process Automation)	20
6.3	内製化と生成 AI (対話型 AI)	20
6.4	内製化と API (Application Programming Interface)	21
6.4.1	API の目的	21
6.4.2	API の機能	21
6.4.3	API を使う手順	21
6.5	内製化と他の仕組みとの連携の関係	22
6.6	Excel と生成 AI・API	22
6.6.1	Excel と生成 AI	22
6.6.2	Excel と API	23
6.7	FileMaker と生成 AI・API	24
6.7.1	FileMaker と生成 AI	24
6.7.2	FileMaker と API	24

<b>Ⅶ 内製化の考え方と開発経緯</b> （堀・小谷野・飯田）	26
7.1 開発担当者の視点	26
7.2 システム連携のツール	26
7.3 内製化で使用するその他のツール	28
<b>Ⅷ 内製化ソフトウェアの評価</b> （運用状況、現場および開発者）（堀・小谷野）	30
8.1 内製化ソフトウェア一覧	30
8.2 汎用照合システム	33
8.3 救急統合データベース	38
8.4 議事録管理システム ～Web アプリケーションを利用した事例～	43
8.5 全自動身長体重計・血圧計患者情報表示ツール	49
8.6 診療所診療報酬請求資料自動作成 ～RPA を利用した事例～	52
8.7 API を利用した事例	54
8.7.1 事例① ビジネスチャットシステムのメッセージ送信プログラム	54
8.7.2 事例② ファイリング情報拡張検索システム	56
8.7.3 事例③ 造影CT 検査前・検査後チェックツール「政宗」	60
8.8 生成 AI を利用した事例	62
コラム 4：曖昧性と不確実性（飯田）	64
<b>Ⅸ 今後の課題</b> （堀・小谷野・飯田）	65
9.1 情報システム部門職員（SE）の確保	65
9.2 内製化における人材確保	65
9.3 複数の仕組みの活用	65
おわりに（飯田）	66
参考文献（飯田）	67
索引	69